1996（平成8）年7月 1日　兵庫県出石郡出石町内町59　勝林寺

勝林寺寺報

蛇のお墓

小学二年の男の子が、三～四人の友達を引き連れて大騒ぎして帰ってまいりました。

ランドセルを背負ったまま、「お墓に埋めてあげるんだ」と叫んでいます。

学校帰りの道すがら、頭から血を流して殺されている長い蛇に出会ったのだそうです。

「可愛そうだったから、連れて帰ってあげた。」

わたしは、蛇が特別にもきらいでしたので、

「ああ、なんていやらしいこと。蛇なんてものを、しかも手掴みにして、もってかえるなんて。そんなもの、さっさと捨てて、すぐ、手を洗いなさい」と叱り付けてしまいました。

どなりちらす私を、男の子たちは、全く無視して、庭の片隅に穴を掘り、あっと言う間に蛇のお墓を作ってしまいました。

そして、その場所に、板を二枚並べて立て、マジックペンで、一枚には「蛇のお墓」と書き、もう一枚には、「目白のお墓」と書きました。

十日ほど前の朝、公園の森の中に死んでいた目白を、大切にここに埋めてやっていたのでした。

うちの男の子をまじえたこの悪餓鬼なかまが、みんな大まじめに、しかも手際よく墓つくりの作業をすすめる様子を、わたしは驚きながら見ておりました。

完成したお墓の前に神妙に手を合わせる男の子たちに、あらためてたずねてみました。

自分たちの行為をなじられていると思ったのでしょうか、うちの子供が、口をとがらしてこのように言ったのです。

「蛇だって小鳥だって、僕の命だってみんなおんなじだよ。怪我したり死んだら、みんなかわいそうじゃあないか。おとなのくせしてそんなことがわからんのか」

男の子の目にはいっぱい涙が沸き出ていました。

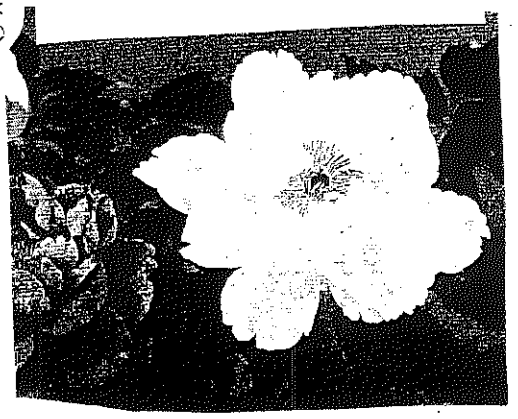
自分のいのちしか見えていないわたしでした。

わたしのこのいのちだって、世界や宇宙を包む大きな大きないのちを、ただ人・蛇・小鳥という具合に、すがた・かたちを変えて生きているだけなのに。

うちの子供は、お墓の前で「帰命無量寿如来」を繰り返し唱えていました。まだそこだけしかおぼえていないからですが、わたしは、はかりしれない無量のいのちをよりどころに人も蛇も小鳥さんも共に生きる世界を、このこどもたちから教えられたように思いました。

ほんとうにはずかしいことでした。

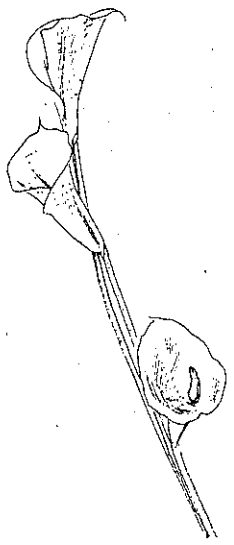
永代経ご案内



如来さまの
お慈悲のなかで
すでに生まれたひとも
今うまれようとするひとも
これからまさにうまれるひとも
とわ（永遠無量）のいのち
ともに生きるよろこびを
たしかめさせていただきましょう。

八日（例年通り送迎バスあり）
午後8時より法要
ご法話　西宗寺　内田　宏円先生

九日
午前九時　仏婦総会
午後二時　永代経法要
両日　作品展示会



葬儀

六月六日
永井　房治　矢根　様

七月のこよみ

五日　おみがき奉仕　高福寺永代経
六日　高福寺永代経　金久繁一氏宅納骨法要　清掃奉仕　展示作品搬入
七日　連研修了者大会
八日　永代経
九日　仏婦総会　永代経　宗費等納入
十日　玉日会定例法座　出石組坊守会研修旅行（→十二日）
一三日　坪木　勉氏宅一周忌法事
一四日　出石組『連研』（西宗寺）　宮嶋　幸男氏宅忌明法事
一六日　十六夜会定例法座
二〇日　天河組同朋講座　出石組仏壮連盟総会
二一日　永井孝一郎氏宅忌明法要　福富　修氏宅法事
二八日　森戸　国造氏宅法事　ご巡教記念法座

出石組
仏壮連盟総会へ
ご参加ください

七月二〇日（海の日）
午前9時より
会場　出石・嶋　西宗寺
記念講演もあります。

電話0796－52－3083　テレホン法話　☎0796－52－5800

「ありがとう」のうた

（研修会ご参加の方から礼状）

昨日は仏婦ブロック別研修会のために、二〇年ぶりに研修会場の勝林寺さまにお参りさせていただきました。

わたしの親戚が、この出石の町にございまして、そこに小学校四年か五年生の夏休みに、遊びにきておりましたとき、そこの伯母から言われて、わたしと同年の女の子とつれだって、このお寺の一泊こども研修会に参加させていただいたことがあります。

いまこのご本堂に座りますと、あの日のことが、つい昨日のことのように思い浮かんでまいりました。

とりわけ、あのとき習った仏教賛歌「ありがとう」のメロデーが堂内に流れたとき、あれ以来ずっと我が胸のなかにあった浄土真宗が、ほんとうに新鮮なものとして蘇ってきたのでした。

みほとけの　めぐみをうけて　こころにみちる　ありがとう。

ありがとう　花よ　花よ。今日の日を明るく咲いて　ありがとう。

小鳥よ　元気な歌を　きかせてくれてありがとう。

ありがとう

ひびのくらしに　ありがとうの　ことばそえて。

あのときご院家様は、「これが浄土真宗なんだよ。ホレ帰命無量寿如来と言うでしょ。無量寿というは、大きな大きな如来様の優しいおいのち。花も小鳥も大人も子供もその如来様のおいのちのなかに生きさせていただいて、おたがいにありがとうとうありがとうと、お礼のことばをかけあっていきましょうネ。これが浄土真宗だよ」

たった一回きりの勝林寺さまの子供会でならったこの歌が、あれから二〇年、事につけ、折りにふれて、わたしのこころに鳴り響いていたのでした。

二〇年ぶりに勝林寺さまへ参らせていただき、しかもあの「ありがとう」のメロデーに出会わせていただき、わたしにとっては、二七〇人のご参加のどの方よりも、倍も三倍もありがたいご縁でございました。

ご院家さまにもお出会させていただき、ほんとうにありがとうございました。

お世話くださいました、勝林寺仏婦のみなさまにも、よろしくよろしくお伝くださいませ。

ご巡教記念法座

昨年、ご門主さまのご巡教をいただきました。

その日を記念して、ご法座をもちます。

ご門主さまのお念佛のおしえを、日々のくらしにどのようにいただいているだろうか。それらのことを互いに語り合う法座に致したいとおもいます。

七月二十八日（日）

午前一〇時～十二時

ご講師　龍野　窪田　正憲　様

（詳細は後日案内します）

納骨参拝

研修旅行の記

幸運の第一は、なんといっても天候でありました。

梅雨前線が日本列島によこたわり、ひょっとしたら雨に風もくわわって大荒れになるやもしれない六月二二・二三日でありました。

それがなんと、第一日目の大津インターでの弁当積み込み時点以後は、雨傘無用、日傘に変様と、おどろくばかりの好天気でありました。

わたしはこの研修旅行には、何度か参加していますし、こんどの高山・下呂コースにも何回か行っていましたが、今回の旅行は、わたしにとって二つの点で、感銘ぶかいものがありました。

その第一は、「研修」旅行の雰囲気のなかでのものであったということです。

登り尾峠を越えた時分から、ご院家のあいさつを兼ねたご法話がありました。

最近経験した二つのエピソードをまじえて、おたがいのいのちのありどころというか、共に生きようという浄土真宗のよびかけを、身近に具体的に話されました。

みんなシーンとなって聞いておりました。

それから大谷本廟に行って、今年は七人の方の納骨をしたのですが、そこでも「浄土真宗のお浄土という世界は、クエイッショ（倶会一処）といって、みんながともに出会って生きる世界です」というご法話があって、肉親を最近なくしたわたしには、ことに胸にこたえた一場面でありました。

第二番目の収穫。これはあとから考えてみると第一番目のことと関連のあることでしたが、この旅行の間に、単に親睦という以上の、数々の新しい出会いができたということです。

実によく飲み歌うなかで、余所の会合とはまた違った、これを「御同行御同朋」の出会いというのでしょう。

（後日談）翌日、高山線下呂の列車が土砂崩れ事故をおこしたと報じられました）

写真は次号掲載

仏壇・仏婦からのおねがい

永代経へ向けて、例年通り次の日程で「おみがき奉仕」と「清掃奉仕」をいたします。

お忙しいとは思いますが、一人でも多くご参加ご奉仕くださいませ。

◇おみがき奉仕

五日（金）　よる七時から

◇清掃奉仕

六日（土）　ひる一時から

作品展示会についてのお願い

永代経・仏婦総会を記念して毎年行っています展示会に奮ってご出品ください。

書道作品・写真・絵画・押し絵・ちぎり絵・陶芸・手芸作品・編み物・洋裁和裁・工作作品・その他

名前を書いて六日までに搬入ください。

考えてみましょう

①てるてる坊主　てる坊主
あした天気に　しておくれ
いつかの夢の空のよに

②晴れたら　金の鈴あげよ
てるてる坊主　てる坊主
あした天気に　しておくれ

③わたしの願いを聞いたなら
甘いお酒を　たんと飲ましょ
てるてる坊主　てる坊主
あした天気に　しておくれ
それでも曇って泣いてたら
そなたの首をチョンと切るぞ

（浅原　鏡村）

これが日本人の「祈り」であるとしたら。梅雨空に、考えてみましょう。